

平成30年度 全国学力・学習状況調査

結果報告書

平成30年9月3日

平成30年4月に第6学年の児童を対象に実施した「平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の概要」が北海道教育委員会から送付されました。その資料をもとに、本校の調査結果を分析しましたので、お知らせします。

今回の学力調査だけで、一人一人のもつ学力の全体像がとらえられたとは言えません。考え判断する力や表現する力、学習意欲などは、数値化するテストでは見えにくい学力です。ここを踏まえながらも、今回の調査でとらえられた傾向を今後の指導に生かし、一人一人の成長につなげていきます。また、各ご家庭でもこの結果を参考にして、お子さんの指導に役立てていきたいと思っております。



旭川市立東栄小学校

1 国語の分析と指導の改善策

(1) 国語A：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

① 分析

- ◎4領域(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」)において「おおむね成果」がみられることから、多くの児童が基礎的・基本的な知識・技能が身に付いています。
- 特に「成果」がみられたのは、「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す」問題と、「日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う」問題です。
- 「課題」がみられたのは、「主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」問題と「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」問題です。

② 改善策

- 「誰が、何をしたのか?」「〇〇をしたのは、誰なのか?」など主語と述語の関係を意識した問いがけをする。
- 日常生活の中で、相手や場面に応じた敬語の使い方を指導する。

(2) 国語B：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

① 分析

- ◎出題された3領域(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」)において、「話すこと・聞くこと」の領域は、「おおむね成果」がみられましたが、「書くこと」「読むこと」の領域は課題が明確になりました。
- 特に「成果」がみられたのは、「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える」問題です。
- 「課題」がみられたのは、「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」「目的に応じて、分掌の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」問題です。

② 改善策

- 文章中の中心語(キーワード)を明らかにして、詳しく説明する文を書くことができるよう指導する。
- 文章の内容を読み取り、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを読んだり、書いたりすることができるように指導する。

2 算数の分析と指導の改善策

(1) **算数A**：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

① 分析

- ◎4領域(「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」)において「おおむね成果」がみられることから、多くの児童が基礎的・基本的な知識・技能が身に付いています。
- 特に「成果」がみられたのは、「角の大きさが、何度であるかを選ぶ」問題です。
- 「課題」がみられたのは、「答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ」小数の除法の意味の理解の問題です。

② 改善策

- 小数の除法の考え方を指導し、反復練習をする。

(2) **算数B**：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

① 分析

- ◎出題された4領域(「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」)において、「数と計算」「量と測定」「図形」の領域は「おおむね成果」がみられましたが、「数量関係」の領域は課題が明確になりました。
- 「課題」がみられたのは、「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる」問題です。
- 正答率が低く、特に「課題」がみられたのは、「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する」問題です。

② 改善策

- 日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることができるよう指導する。
 - ・複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現すること。
 - ・グラフの特徴を理解し、複数のグラフから読み取ることができることを、適切に判断すること。

3 理科の分析と指導の改善策

① 分析

- ◎出題された4領域(「物質」「エネルギー」「生命」「地球」)において、「生命」「地球」の領域は「おおむね成果」がみられましたが、「物質」「エネルギー」の領域は課題が明確になりました。
- 特に「成果」がみられたのは、「野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ」問題です。
- 「課題」がみられたのは、「妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する」問題です。
- 正答率が低く、特に「課題」がみられたのは、「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる」問題です。

② 改善策

- 地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係について考えをもつことができるよう指導する。
 - ・雨の降り方によって、流れる水の速さと量が変わり、増水により土地の様子が大きく変化する可能性があること。
- 物を水に溶かし、水の温度や量による溶け方の違いを調べ、物の溶け方の規則性について考えをもつことができるように指導する。
 - ・物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。
 - ・物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないこと。

4 児童質問紙調査の結果

(1) 分析

【学習習慣】

○家庭での宿題や授業の予習・復習をしているかなどの質問において、肯定的な回答が高い割合を示しています。また、そのときに教科書を使って学習していると回答している割合も高く、反復学習などの「学習習慣」が身に付いているといえます。

△月から金で家庭学習を1日当たり1時間以上する質問において、約70%の児童が取り組むことができている状況ですが、学年に応じた家庭学習時間に近づきたいです。

△自分で計画を立てて勉強をしている質問において、約70%の児童が自主的な計画に基づいて家庭学習に取り組んでいますが、受け身的な児童が30%います。

【自尊意識】

○「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」などの質問において、肯定的な回答が高い割合を示しており、「自尊意識」は高く、望ましい状況です。

【規範意識】

○「学校のきまりを守っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」などの質問において、肯定的な回答が高い割合を示しており、「規範意識」は高く望ましい状況です。

【生活習慣】

△「朝食を毎日食べている」の質問において、90%の児童が肯定的な回答をしているが、10%の児童は朝食を食べずに登校しているのが課題です。

△起床時間は概ね一定時間に起きている回答が高い割合を示していますが、就寝時間が不規則な状況が見られ、睡眠時間の不足などが懸念されます。

【地域参画】

●「地域行事に参加している」「ボランティア活動に参加している」「地域の大人に勉強やスポーツ、遊びなど教えてもらう」などの質問において、ほとんど地域とかかわり合いがない児童の割合が多く、地域とのつながりが希薄化している傾向が見られます。

【算数の授業】

○「算数の勉強は大切だ」「算数の学習は将来役立つ」などの質問において、肯定的な回答が高い割合を示しています。

(2) 改善策

【生活習慣】

■町内会や市民委員会などと連携し、子どもが積極的に地域行事に参加できる仕組みを検討する必要がある。

■参観日や通信等を利用して、児童の実態を家庭や地域に伝え、家庭と連携しながら、子どもの健康や生活習慣の大切さを考えるよう指導する。

■遅刻してくる児童の生活習慣の改善が図れるよう指導する。

5 まとめ

○全国学力・学習状況調査の結果からは、算数の習熟度別少人数指導や全校で取り組んでいる家庭学習の取組の成果が着実に表れています。

○今後ともご家庭と連携して、子どもたちの基本的な生活習慣を身に付けること、地域と連携して学校の学びと社会をつなげる働きかけ